

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	270301492		
法人名	社会福祉法人寿栄会		
事業所名	石堂さくら通りロジエ		
所在地 (電話番号)	〒039-1165 青森県八戸市石堂2丁目29-7 (電話) 0178-51-2282		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 8月 28日	評価確定日	平成 19年 10月 22日

【情報提供票より】(平成 19年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 3月 10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	8 人	常勤	8人, 非常勤 0人, 常勤換算 8.0人

(2) 建物概要

建物構造	管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	250 円	おやつ 100 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	5名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 88.5歳	最低	83歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長谷川内科胃腸科・いながき歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>特養やデイサービスを運営する母体法人がバックアップとして充実しており、ADL低下等での退居時には連携が図られている。入居者個々の特徴を引き出し日々のケアが実施されている。また毎月家族にお便りを送付するなど積極的に情報提供が行われている。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題として食事時の対応について取り組んでいたが、現状は変化していない。今後の取り組みに期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の一連の過程を全職員で取り組むことで評価の意義を理解する機会を設け、全職員が一丸となって質の確保や向上を図ることを期待したい。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議には行政・町内会会長・民生委員・家族などが参加し、ホームでの出来事や施設としての取り組みを公表したり、地域での出来事に関しての情報提供を受け、サービス向上に取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)</p> <p>面会時などいつでも対応できる体制となっている。毎月お便りを送付するなど家族に随時、情報提供を行い、不安を与えないように配慮されている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の総会、新年会、盆踊り大会、防災訓練等に積極的に参加し、事業所としても見学・訪問・ボランティア等の受け入れ体制ができており、地域との連携強化に努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念とは別に地域密着型サービスの意義を理解しており、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性強化を念頭に置き理念を独自につくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時研修には理念の意味を伝え、定期的な会議・申し送りを実施し、実践に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の総会、新年会、盆踊り大会、防災訓練等に積極的に参加しており、事業所としても見学・訪問・ボランティア等の受け入れ体制ができています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価結果は会議等で伝えている。評価項目について職員で話し合うまでは至っていない。</p>		<p>評価の一連の過程を全職員で取り組むことで評価の意義を理解する機会を設け、全職員が一丸となって質の確保や向上を図ることを期待します。</p>
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回のペースで開催され、活動状況等の報告を行い、委員の方から意見をいただきながら資質向上に活かしている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村職員とは運営推進会議において情報交換を行っている。</p>		<p>地域密着型サービスを適正に運営していくため、市町村と考え方や実態を共有し合い、協議しながら課題解決していく姿勢が求められます。</p>
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護に関する制度について管理者は外部研修会等で理解はしているが、現在の施設状況の中で必要性がないとすることで他の職員は理解していない。その為必要な時に支援出来る体制が万全とはいえない。</p>		<p>定期的に勉強会を開催したり、研修の場を増やし、更なる職員の理解を深め、必要時全職員が対応できる体制の構築を目指すことを期待します。</p>
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内での勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に丁寧に説明している。納得いただけるように質問を受けるよう配慮しており、解約時も管理者が窓口になり適切な対応を行っている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、お便りを送付し金銭の使用状況や心身状態を含めた状態報告を行っている。また、面会時にもその都度、現状報告を行っている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>第三者委員が月1回程度訪問し利用者・家族等の相談にのっている。利用者の立場に立った意見を頂き、運営の参考にしている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者・家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えており、異動や離職がやむを得ない場合も、その時期や引継ぎ(1ヶ月をめぐりに)の面で最善の努力をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を実施しており、管理者は多くの外部研修に参加している。		管理者だけではなく職員も外部研修に参加することで職員自身の職務に対する意欲向上にもつながり、それを報告会等で伝達することで他の職員の意欲向上につながると思うので今後の取り組みに期待します。
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県・市のグループホーム協会に加盟しており、そこで開催される研修会や懇親会に管理者を中心に積極的に参加し意見交換等を行い、サービスの質の向上を目指している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に事前調査を行い、それを基に対応している。入所間もない方の不安や混乱等も考慮し、家族等にお願いしホーム内で一緒に過ごせるように配慮し安心感を持ってもらえるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たず、お互い協働しながら和やかな生活ができるような声かけや場面作りへの配慮が感じられた。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>普段の会話や暮らし方、日常生活などから一人ひとりの意向を理解すると共に、本人に確認を取って、生活を支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>面会等を利用して家族や本人の意向を確認し、全職員で協働して個別の介護計画が作成されている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>原則3ヶ月で見直ししているが、本人の状態の変化や、家族等の要望を考慮し、随時、検討会議が開催され見直しが行われている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>現在は行われていないが、空床室を利用してショートステイの利用を検討している。</p>		<p>利用者や家族の状況や意向は日々変化しており、その時々々の状況や要望に向き合い、暮らしの継続に必要な支援を柔軟に提供していくことが求められます。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>契約時に医療情報を得て、家族・本人とともに受診の支援方法について検討し可能な限り本人・家族の希望に応じて対応を実施している。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>現在は重度化してくると同法人の特養への申し込みを行っている。指針の作成や定期的の家族・本人と話し合いを持つことを検討している。</p>		<p>本人の状態によって、本人と家族の思いは常に揺れ動きます。ケアの質を更に向上させるため、変化のたびに話し合いを持ち、個々の安心と納得いく終末期ケアを検討することが望まれます。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個々に合わせて声がけや対応を検討し実施されている。個人情報保護については契約時に家族へ説明しており、職員へも誓約書の記入を求めている。誓約書は定期的に更新しており、それにより職員の意識低下防止にも配慮している。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者が個々に合わせて生活していくペースを尊重し支援していくことが大前提であることを職員が理解し共有され、個々の体調や希望を尊重した個別支援を実施している。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者と一緒に食事を取ることができず、食事中は職員は食事介助と見守りが中心となっている。</p>		<p>食事は栄養摂取だけが目的ではなく、意欲や喜びをもたらすものです。事業所全職員で食事の環境について検討し、利用者と一緒に食事を楽しめる環境作りを前向きに検討されることに期待します。</p>
26	54	<p>入浴を楽しむことのできる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>ある程度、曜日時間帯は決まっているが、曜日・時間帯は利用者の意向を尊重し入浴している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>掃除や金魚の餌やり、庭の草取り等利用者が意欲的に活動できるものを探り、個別の能力に考慮し実施しており、張り合いや喜びのある生活への配慮がなされている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>個々のニーズや気分に沿って買い物や散歩、ドライブ、庭での日向ぼっこ等行っており、日常的に外出を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>ミーティング等で職員の意識向上を図ると共に、日々の関わりに関してもスタッフ間で話し合いがされ、身体拘束を行わないケアに努めている。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>利用者の心身状態の把握に努めており、見守る体制が確保されている。可能な限り本人の意向に沿った、安心な暮らしを援助している。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>月1回自主訓練の実施、年2回消防署員、地域住民の協力を得て合同で訓練が行われている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量は全利用者、水分摂取量は必要に応じて記録し把握に努めている。献立は定期的に栄養士に確認してもらい、ケアに反映している。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染予防の各種マニュアルが整備されている。会議等で対策について話し合いがもたれている。</p>		<p>感染症の流行や対策について最新の情報に基づきその都度マニュアルの見直しや勉強会を開くことで予防強化につなげていくことに期待します。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が季節を感じ、五感を適度に刺激する環境を意識的に採り入れると共に心地よい空間を意識していただけるような配慮がなされている。		
		居心地よく過ごせる居室の配慮			
35	80	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具などの持ち込みがされており、生活スタイルに合わせて自由に配置されている。		

 は、重点項目。